

平成31年（令和元年）度 一般社団法人美しい伊豆創造センター事業計画

○伊豆半島グランドデザインの改定

1. 事業概要

平成25年4月に策定した伊豆半島グランドデザインは、伊豆を一体的・総合的に捉えた長期的視点に立つ地域づくりの方向性を示すとともに、中期・短期において直面する課題を解決し、地域の振興を図る戦略を構築することにより、地域の誇りと世界の中で輝き続ける伊豆の未来を創造することを目的に策定したものである。

しかし策定から5年が経過しており、多様化する観光ニーズなど、社会経済情勢が変化していること、及び美しい伊豆創造センター（一般社団法人と任意団体）の統合を踏まえ、伊豆半島グランドデザインを改定する。

2. 事業目的と効果

伊豆半島の目標である美しい半島を創り上げる基幹戦略として、様々な機会・機能を集約して環境、営み、人の面で「美しい半島」をさらに磨きをかけ、伊豆を世界ブランドとして確立・発信し伊豆の存在感を高めることができる。

3. 主要事業

・伊豆半島グランドデザインの改定

多様化する観光ニーズや、社会経済情勢の変化を考慮した内容に更新をする。特に伊豆半島観光戦略推進事業により策定した、伊豆半島観光戦略の基本戦略及びアクションプランとの関連性を重視し、改定を行う。

○伊豆半島観光戦略推進（DMO）事業

1. 事業概要

平成29年度・30年度に、伊豆半島観光戦略の策定及び推進事業として、組織の基本となる目標を定め、目標達成に向けた行動計画（アクションプラン）を定めたことで、平成31年度はアクションプランを基に事業推進を行う。主要事業としては、旅行業登録を行い、新たな商品開発の検討も行っていく。

併せて、観光事業に関わる人材の育成が重要となることから、観光推進の課題解決に対するノウハウ向上の取り組みを行い、伊豆半島の観光事業の推進を図る。

2. 事業目的

具体的なアクションプランを進め、域内の観光消費額拡大に努めるとともに、旅行業登録及び商品開発による自主財源確保に向けた取り組みを行う。

3. 事業効果

策定した観光戦略において、定めた指標（目標）の達成度合いと推進事業の検証を行い、より効果的な事業への転換を図ることができる。

併せて、観光事業の将来を担う人材育成を行うことで、雇用促進および観光産業に関わる従事者の質を向上し、よりよい観光地となることを促進できる。

4. 主要事業

（1）伊豆半島観光戦略の推進事業

- ・ アクションプランを推進するための事業
組織統合後の組織規模に応じた事業検証（ヒト・モノ・カネ）
組織強化・事業推進力強化に向けたワーキンググループ設置
- ・ 他のDMO組織との打合せ会議等

（2）旅行業登録事業

自主財源確保及び域内の新しい（認知度が低いが魅力的な）観光素材の流通促進を目的や必要に応じて旅行商品化できるよう、旅行業登録を行う。

- ・ 旅行業（第2種）登録の費用

（3）旅行商品開発・流通促進事業

- ・ 旅行業登録に伴い旅行商品の開発事業
- ・ ジオ教育（旅行）プログラム、域内旅行商品等を流通させるための事業

(4) 人材育成の研修会の実施事業

- ・ 観光事業を支える人材育成の研修事業

専門人材（デジタルマーケティング、インバウンド向け特定テーマなど）活用

- ・ 観光業及び旅館等の人材確保に向けた事業

金融機関との協定等を通じた雇用促進を支援する事業

(5) 伊豆半島温泉旅館合同企業説明会

- ・ 伊豆半島のメイン産業である“観光”を支える温泉旅館の人材確保を目的に、首都圏において、ホテル・観光関係の学生を対象に、事業経営者と共同で合同企業説明会を開催

○国内観光キャンペーン事業（静岡DC推進事業）

1. 事業概要

伊豆の主要マーケットである首都圏等での観光キャンペーンの開催、またツーリズムEXPOジャパン等の大型観光展に出展し、地域外へ伊豆の魅力をPRする。

本年は静岡DCの本番を迎えることから、静岡DCのプロモーションを全てのキャンペーン事業へ関連付けて実施する。

また、RWCの県内開催、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技が静岡県東部及び伊豆地域で開催され、世界的に伊豆半島地域に注目が集まることから、ジオパーク推進協議会等の広域団体とも連携を図りながら、伊豆地域外からの誘客を推進する。

2. 事業目的

伊豆半島全体を面と捉え、自然・食・文化といった地域の豊かな観光素材を外へ発信していくことで、地域全体の観光来遊客数の増加を図る。

静岡DCについては、JR各社・静岡県・観光関連事業者等と連携し、伊豆半島全体の気運の醸成を図り、未だ知られていない新たな伊豆の魅力を地域外へ発信していくことで、継続した観光来遊客数の増加へつなげていく。

RWCや東京オリンピック・パラリンピックなど、世界的な注目の集まるイベントが静岡DC終了後も開催されることから、国内誘客のみならずインバウンド事業との連携を図りながら、海外からの来遊客数の増加も目指す。

3. 事業効果

伊豆半島全体を面と捉えた広域の観光PRを実施することで、来遊客を地域全体に周遊させることができる。

また、静岡DCをきっかけに創出された伊豆半島の新たな魅力を、静岡DC終了後も継続して世界的なイベントに合わせ国内・海外に向けて効果的に情報発信をすることができる。

4. 主要事業

(1) ツーリズムEXPOジャパン等観光展への出展

国内最大級の大型観光展であるツーリズムEXPOジャパンや、JR上野駅での伊豆産直市等へ出展し、伊豆の観光PRと誘客を図る。

(2) 伊豆総合パンフレットの改訂及び作成

伊豆半島の総合観光パンフレットの内容の修正及び改定

(3) 静岡DCの推進

4月～6月に開催する静岡DCでの誘客促進と、静岡DC終了後の継続した誘客を可能にするための商品造成を図る。

- ・ジオサイトを活用した新たな観光商品の創出とPR

ユネスコ世界ジオパークに認定された、伊豆半島ジオパークの魅力を活かした観光商品の開発と、伊豆半島ジオパークに訪れてもらうための地域外へのPRを図る。

(4) RWC, 東京オリンピック・パラリンピックへ向けた来遊客の誘致

世界的なスポーツイベントを通じ、伊豆半島への誘客を図る。

○インバウンド（外国人観光客等誘客）事業

1. 事業概要

伊豆地域を外国にPRするにあたり、市町単独・単発での観光プロモーションを行われているが、伊豆半島としてプロモーションをすることで、伊豆地域全体の認知度が上がる。

外国人観光客にとって行政区割りより、観光地としての魅力を伝えるためにも、スケールメリットを考えて事業を推進していくことで、インバウンドの増加を図る。

2. 事業目的

伊豆地域への訪日旅行者数を増加させるため、観光プロモーションや観光展を通して魅力と素材を効果的にPRし、多くの外国人が訪問することで、地域活性化を促進する。

3. 事業効果

本事業によって得た知見を会員に伝え、受け入れ態勢の強化を図り、伊豆の特色を活かす事業展開につなげていく。

さらに、伊豆地域の関連旅行商品が要望等により、造成され諸外国のニーズにあったものができることで、伊豆を訪れる多くの外国人観光客が見込める。

4. 主要事業

（1）台湾観光展及びセールス事業

- ・「台湾観光展（ITF）」への出展及び交通事業者とのセールス事業

（2）タイ観光展及びセールス事業

- ・タイ国内における観光展への出展事業
- ・「タイバンコク日本博」は、民間事業者と連携して開催しプロモーション事業の強化とセールスを行う。
- ・「タイ観光展（TITF）」への出展及びセールス事業

（3）ファムトリップ及び商談会事業

- ・台湾・タイ・東南アジア・欧米等の旅行会社やブロガー等のファムトリップの対応事業
- ・TSJ、県、観光協会等と連携した商談会事業
- ・県海外駐在所（台湾事務所、東南アジア事務所、ソウル事務所）等と連携したファムトリップ及び商談会事業

- (4) 伊豆半島ジオパークとのインバウンド連携事業
 - ・台湾にある野柳地質公園等での観光PR事業
 - ・ジオサイトを主とした、教育関係事業者及び旅行会社へのPR事業
 - ・ジオパークと連携した広告及び広報事業
- (5) 新規開拓のプロモーション事業
 - ・新規の国等へのプロモーション事業
 - ・東南アジア（ベトナム・シンガポール）のプロモーション事業
 - ・ラグビーワールドカップに向けた欧米豪へのプロモーション事業
 - ・東京オリンピック パラリンピックに向けたプロモーション事業
- (6) 中国セールス事業
- (7) トップセールス事業
 - ・伊豆半島13市町首長による伊豆半島PRの連携事業

○情報発信事業

1. 事業概要

(一社)美しい伊豆創造センターが運営する総合観光情報サイト「ゆうゆうネット伊豆」に掲載している伊豆半島の観光情報の充実を図る。

2. 事業目的

「ゆうゆうネット伊豆」に伊豆地域の観光情報・観光関連情報（食や文化など）を集約させ、伊豆の総合観光情報サイトとしての機能を持たせる。また、マーケティングに基づいた情報発信を行うことで、より有効的な誘客促進を行う。

3. 事業効果

総合的観光情報サイトとすることで、伊豆への来訪客がより観光情報・観光関連情報を取得しやすくなり、また情報提供も統一して提供することが可能となり、より効果的な観光誘客が可能となる。

4. 主要事業

- ・ ゆうゆうネット伊豆の管理・運営
- ・ ゆうゆうネット伊豆の定期的な観光情報の更新と、SNSと連動した情報発信
- ・ マーケティングに基づいた周遊企画等の作成と発信
- ・ 三島駅新幹線通路に、引き続き「伊豆半島の電照サイン」を設置し、新幹線利用の来遊客に伊豆の観光スポットを提供

○来遊客周遊性向上事業

1. 事業概要

来遊客の周遊性及び滞在性向上のための伊豆半島サイクルフレンドリー事業や伊豆半島内にある道の駅を周遊させる事業を実施する。

2. 事業目的

周遊性を持たせたイベントや観光商品を企画・開発することで、伊豆地域への来遊客の滞在期間を日帰りから1泊～2泊の宿泊へ誘導する。

3. 事業効果

サイクリング事業などの実施により来遊客の滞在期間が延びることで、事業関係者だけでなく宿泊施設や飲食店等への経済波及効果が期待できる。

長期滞在が必要となることで、海外からのインバウンドへも伊豆半島への誘客を図ることができる。

4. 主要事業

(1) 周遊性・滞在性の向上

・伊豆半島サイクルフレンドリー事業

伊豆半島を「サイクリングの聖地」にすることを目標に、以下の5つの事業により、自転車を活用した地方創生及び観光振興を展開する

- ① 伊豆半島一周サイクリング開催事業
- ② サイクリングリゾート伊豆基本計画推進事業
- ③ スルガ銀行との「自転車振興に関するパートナーシップ協定」事業
- ④ サイクリングエリア交流事業
- ⑤ 伊豆半島ガイドライド造成モニターツアー調査

・道の駅ネットワーク周遊促進事業

伊豆半島及び道の駅を周遊させるため、目的エリアの道路情報、観光・産業等の情報が分かるワオマップ（無償配布）に、8ヶ所の道の駅の位置及び写真を、引き続き掲載マップは、海老名SA、岡崎SA、浜名湖SA、海ほたるに計60,000部を配架

○地域ブランド化事業

1. 事業概要

伊豆半島の豊かな食資源や文化芸能などの様々な魅力を活かし、圏域内外の適地に於いて、嗜好を凝らしたイベント展開による情報の発信・受信及び新たな体験と触れあいの場の提供を通じて、伊豆半島地域への実際の来客を促しその活性化を目指す。

2. 事業目的

伊豆半島地域のブランド力向上と地域経済への波及、また食資源や地域の文化を取り入れた新たな観光商品の造成を目指す。

3. 事業効果

従来型の観光PRや物産販売に留まらず、移住・定住の促進やふるさと納税の出張窓口開設など、伊豆半島地域の魅力を総合的に発信するとともに、来場者の生の声を受信し、そのブランド力の向上に加え、地域への経済波及に寄与し、その活性化が期待できる。

4. 主要事業

(1) 伊豆半島内の食材を活用した新商品の開発・販売支援

- ・食資源商品化支援事業（るるぶキッチン実施事業）

多様な山海の幸に恵まれた伊豆の食資源の商品化を目指した「カップグルメ事業」が一定の成果を得たことから、その発展形として、旅行雑誌「るるぶ」の出版元であるJTBグループが東京赤坂で運営する飲食店を一週間貸し切り、伊豆半島地域の特産品をふんだんに使った特別メニューの提供を通じ、伊豆産食材の利用促進と消費の拡大に留まらない、伊豆半島地域の新しく包括的なプロモーションを推進する。

(2) 物産イベント・地場産品販売支援

地場産品の磨き上げと物産展など地域内外での販路（顧客）拡大を支援していく。

- ・伊豆半島アンテナショップの運営

伊豆半島の観光情報の紹介、地場産品の販売や飲食の提供（テストマーケティングの場合）、伊豆ファンの交流拠点、移住・定住の情報拠点といった複合的な拠点とすることで、伊豆半島の魅力を一体的に発信する

- ・食資源による魅力発信事業

農林水産業者や商工事業者などとの連携により、地場産品の磨き上げと販路拡大を支援
また、物産イベントの開催等を通じて、伊豆半島が誇る豊富な食資源を効果的に情報発信

○その他連携事業の実施

来訪客が伊豆半島に少しでも長く滞在できるよう、観光関係団体、他の産業団体などと連携し、着地型商品の造成を支援する。

- ・ 関係団体等への負担金等
関係団体への負担金、関連イベントへの協賛金
- ・ 各種協議会等広域連携会議等参画
伊豆半島道路ネットワーク会議、伊豆半島景観協議会等の各種広域連携会議への参画